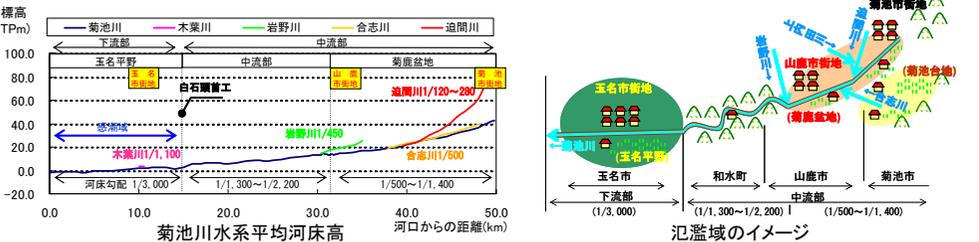
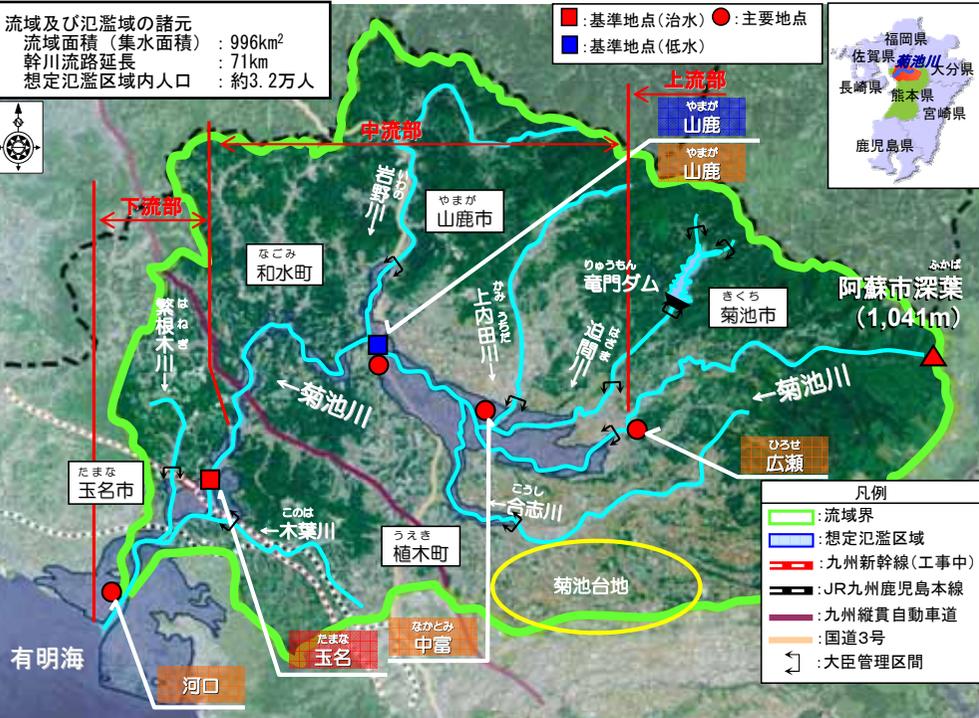


流域及び河川の概要

- 玉名、山鹿、菊池市街地に人口資産が集積し、ひとたび氾濫すると甚大な被害が発生。特に山鹿市街地では、急勾配の支川が集まり洪水氾濫が発生しやすい。
- 流域南部には菊池台地が広がり、阿蘇火砕流堆積物に起因する段丘堆積物が堆積しており、水源に乏しい
- 中流部は、瀬・淵が連続し、瀬はアユの産卵場として利用されているとともに、国指定天然記念物「チスジノリの発生地」が存在



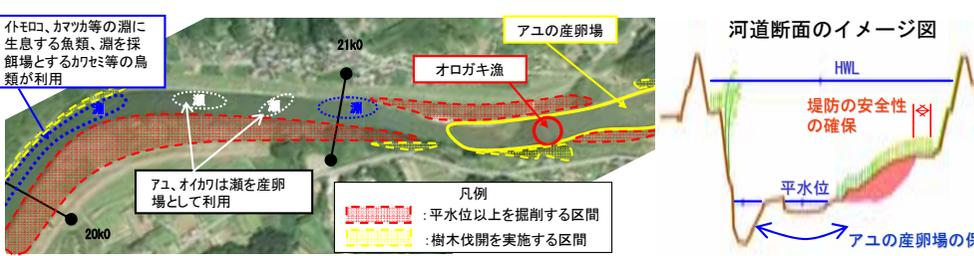
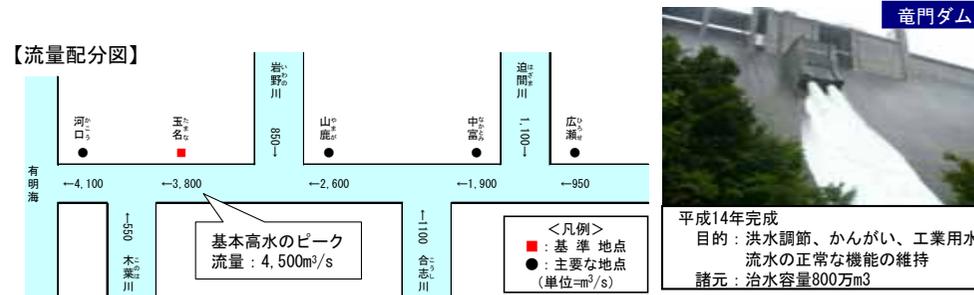
河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 広域かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して必要な流量の確保に努める
- 山鹿地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、かんがい期で概ね16m³/s、非かんがい期で概ね8m³/sとし、以て流水の適正な管理、円滑な水利用、河川環境の保全等に資するものとする

災害の発生の防止又は軽減

- 工事実施基本計画改定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、雨量データによる確率からの検討、既往洪水からの検討、1/100確率規模モデル降雨波形による検討等を総合的に検討し、河川整備基本方針においても既定計画と同様に基本高水のピーク流量を基準地点玉名で4,500m³/sと設定

- 基本高水流量と計画高水流量の差分については、既設洪水調節施設及び洪水調節施設の整備により対応
- 菊池盆地に主要な支川が集まり、洪水氾濫しやすいことに加え、玉名平野や菊池盆地等に人口資産が集積している状況等を踏まえ、それぞれの地域特性にあった治水対策を講じることで、水系全体として本支川、上下流のバランス良く治水安全度を向上させる
- 豊かな河川環境等に配慮するとともに、河道の安定を考慮し平水位以上相当分を掘削



河川環境の整備と保全



- アユの産卵場となる瀬、国の天然記念物に指定されている「菊池川のチスジノリ発生地」、淵と連続する河畔林等は可能な限り保全に努める
- 下流部においては、現在の干潟環境に加え、かつての砂浜を復元し、ヤマトシジミ等も生息できる多様な環境への再生を図るとともに、砂浜へのアプローチなど今後の利活用の促進を図る
- 河川と堤内地の水路等との間に段差が生じている箇所については、水域の縦横断的な連続性を確保しエコロジカルネットワークの形成に努める

久慈川水系河川整備基本方針(案)の概要

流域及び河川の概要

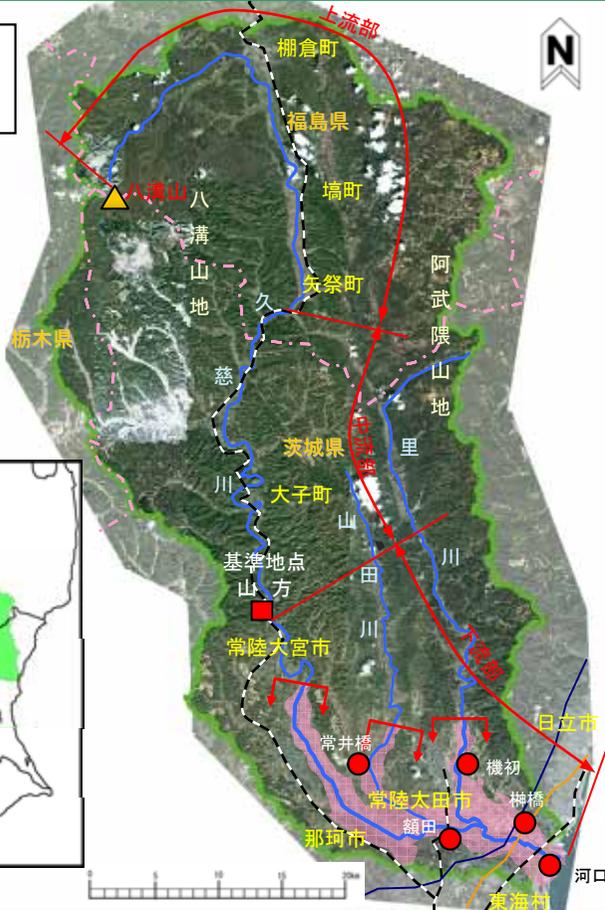
- 久慈川は、八溝山を発し上流部では山地との間の谷底平野を流れ、山間狭窄部である奥久慈溪谷を経て、下流部に広がる氾濫原において、主要支川である山田川・里川が近接して合流
- 下流部には、中核都市である常陸太田市、工業地帯や国際貿易港を有する日立市や原子力発電所を有する東海村などを有し、一度氾濫すると甚大な被害が発生
- 河道内には、江戸時代より洪水から農地や家屋を守るための竹林（水害防備林）が現存

流域面積(集水面積) : 1,490km²
 幹川流路延長 : 約124km
 想定氾濫区域内人口 : 約4万人

- 凡例
- : 流域界
 - - - : 県界
 - - - : JR
 - : 国道
 - : 高規格幹線道路
 - : 基準地点
 - : 主要地点
 - ⇄ : 大臣管理区間
 - : 想定氾濫区域



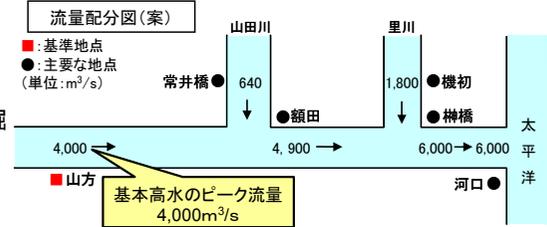
【久慈川流域位置図】



災害の発生の防止又は軽減

- 工事实施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、既往洪水による検討等を総合的に検討し、河川整備基本方針においても既定計画と同様に基本高水のピーク流量を基準地点山方で4,000m³/sと設定

- 基本高水のピーク流量の全量を河道で分担

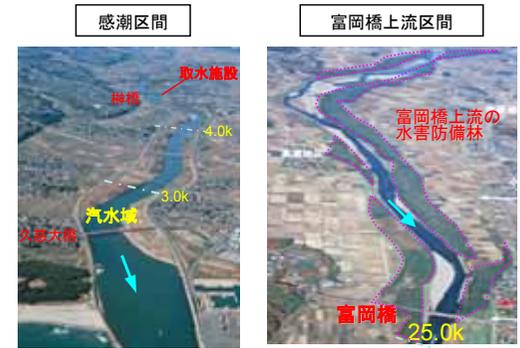


- 自然環境、河川景観の保全等に配慮しながら、堤防の新設・引堤・拡築、河道掘削、樹木伐開等により河積を増大するとともに水衝部等には護岸等を整備

- 治水対策を早期かつ効率的に進めるため、輪中堤や宅地の嵩上げ、二線堤等の対策を検討の上、実施

- 渇水時に塩水遡上による取水障害を踏まえて、塩水の遡上状況のモニタリングを反映させて段階的な河道掘削を実施

- 水害防備林は、治水機能や景観価値等を考慮し、流水の阻害をきたさないよう地域と協働した適切な維持管理を実施



河川環境の整備と保全

- 上流部では、ヤマメ・イワナ等の生息・繁殖場となっている溪流環境の保全に努める
- 中流部では、奥久慈溪谷に代表されるような溪流環境の保全に努める
- 下流部では、イカルチドリ等の生息・繁殖場となる砂礫河原やタコノアシ等の生育・繁殖場となる旧川跡地等の湿地環境の保全に努める
- 上流域から下流域のアユ・サケ等の生息・繁殖場となる区間については、瀬と淵が連続する良好な環境の保全に努める



アユの生息・繁殖場 (大子町)

イカルチドリ等の生息・繁殖場となっている砂礫河原(常陸大宮市)

産卵のために遡上するサケ (常陸大宮市)

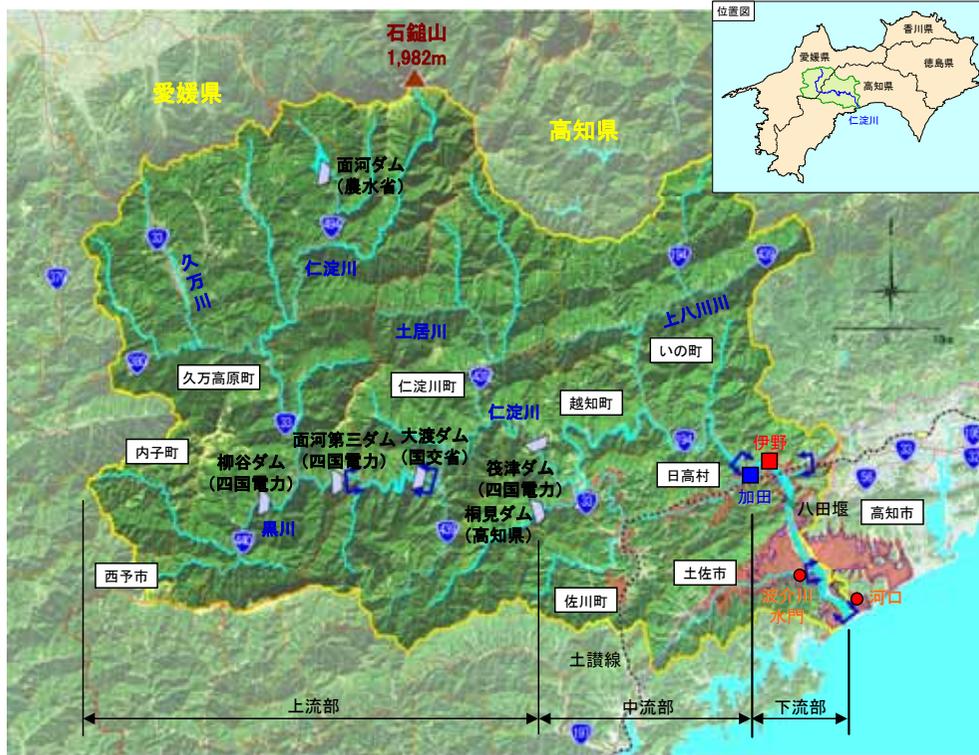
河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携して、流水の正常な機能を維持するために必要な流量の確保に努める
- 山方地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、5月1日から9月10日までは概ね10m³/s、9月11日から4月30日までは概ね3m³/sとし、以て流水の適正な管理、円滑な水利使用、河川環境の保全に資するものとする

仁淀川水系河川整備基本方針(案)の概要

流域及び河川の概要

- 台風常襲地帯で、年平均降水量は2,800mm(全国平均の約1.7倍)で全国でも有数の多雨地域
- 仁淀川下流部では、東西から日下川、宇治川、波介川等の支川が合流。支川沿いに発達した平地に人口・資産等が集積しているが、仁淀川から離れるほど地盤が低くなる地形で、内水による甚大な被害が頻発
- 年間の河川空間利用者数は約37万人におよび、1kmあたりの水あそび利用者数は全国3位と河川利用が盛ん



流域及び氾濫域の諸元

- ・流域面積(集水面積) : 1,560km²
- ・幹川流路延長 : 124km
- ・想定氾濫区域内人口 : 約 4.0万人

凡 例			
	流域界		県境
	想定氾濫区域		治水基準地点
	かんがい給水区域		利水基準地点
	直轄管理区間		主要地点
	取水堰(既設)		鉄道(JR線)
	高速自動車道		既設ダム

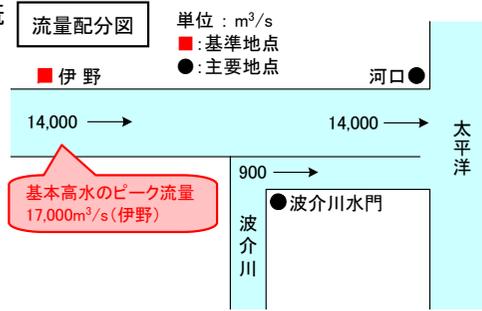
河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 水資源開発施設の整備や広域的かつ合理的な水利用の促進を図るなど、今後とも関係機関と連携し必要な流量の確保に努める
- 加田地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量は、かんがい期概ね24m³/s、非かんがい期概ね20m³/sとし、以って流水の適正な管理、円滑な水利使用、河川環境の保全等に資するものとする

災害の発生防止又は軽減

■ 工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量データによる確率からの検討、既往洪水による検討等の結果を総合的に検討し、河川整備基本方針においても既定計画と同様に基本高水のピーク流量を基準地点伊野において17,000m³/sと設定

- 基本高水流量と計画高水流量の差分については、既設洪水調節施設及び新たな洪水調節施設で対応
- 治水安全度を向上させるため、流域の自然環境、河川景観の保全、河川利用の促進に配慮しながら、堤防の新設・拡築、河道掘削、樹木伐開等により河積を増大
- 近年でも氾濫等による浸水被害が頻発している支川においては、関係機関と連携・調整を図りつつ、河道改修、放水路、河口導流、排水機場等、各支川の河道特性、地形特性、氾濫形態等を考慮した有効な方式による治水対策を推進
- 河口砂州については、砂州形状等を継続監視し、必要に応じ適正な管理を実施



河川環境の整備と保全

- 上流部ではブチサンショウウオ、オオダイガハラサンショウウオの産卵場・生育場である環境の保全
- 中流部ではアユ等の生息・繁殖場となっている瀬の保全
- 下流部では、コアシサシ、イカルチドリ等の繁殖地である礫河原、アユ等の生息・繁殖場となっている瀬、鳥類、昆虫類の生息場所であるヤナギ類等の河畔林の保全
- ウミホソチビゴミムシやシオマネキ等が生育する河口の河川環境の保全・復元
- 流域の都市化等に伴う白濁化等の水質悪化が著しい支川については、関係機関と連携・調整しながら浄化対策を実施
- 川漁、水遊び、キャンプ等のイベント、スポーツレクリエーション等地域住民の憩いの場として利用されていることを踏まえ、河川に関する情報を地域住民と幅広く共有し、河川愛護活動等を推進

